

木造建築遺産保存論

—日本とヨーロッパとの比較から—

マルティネス アレハンドロ（東京文化財研究所 アソシエイトフェロー） 著

本体価 12,000 円＋税

A 5判上製函入 本文 392 頁 カラー口絵 8 頁 ISBN 978-4-8055-0861-9 C3052

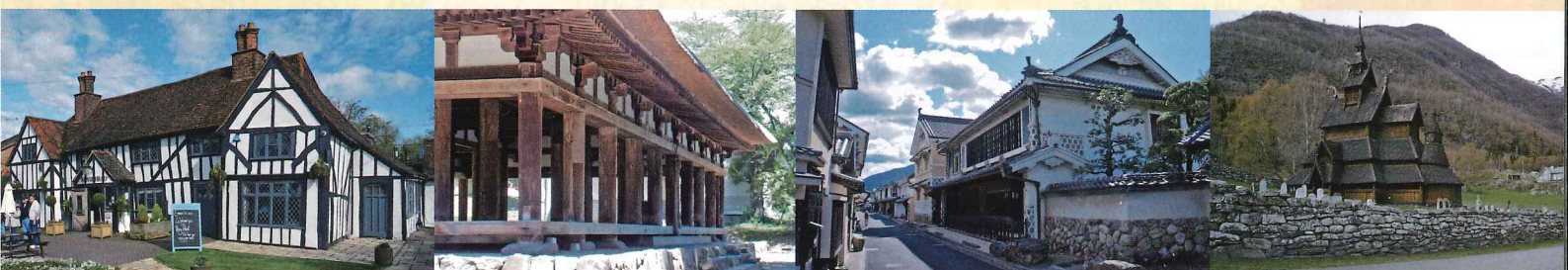
日本とヨーロッパでは異なる事情を背景にした木造建築遺産の保存がそれぞれに行われてきた。しかし、本研究で行われる日本とヨーロッパの比較は、両方の相違点を単に指摘することを目的とするのではない。むしろ、木造建築遺産保存をめぐる普遍的な課題を認識し、これらについて日本とヨーロッパ各国においてどのような答えが出されたかを体系的に分析し、ヨーロッパにおいて日本と同様なアプローチが採られた事例にも注目する。日本の特質を明確にするとともに、その特性の背景を論理的に解説することで、文化遺産保存における国際的な相互理解に貢献することを期待する。（「序章」より抜粋）

【著者略歴】

マルティネス アレハンドロ (Alejandro Martínez de Arbulo)

1984年 徳島生まれ
 2008年 スペイン・ナバラ大学建築学科卒業
 2017年 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻博士課程修了、博士（工学）
 2016年～ 東京文化財研究所文化遺産国際協力センター・アソシエイトフェロー
 イコモス国際木の委員会会員

著書に『建築の歴史・様式・社会』（共著、中央公論美術出版、2018）など



従来、「木」対「石」の構図で語られてきた、日本と西洋の建築遺産保存の比較。本書はこの対立の構図を乗り越えるために、両者の木造建築遺産保存に注目し、建築遺産の評価基準の違いなどの理念的な側面を踏まえつつ、日本の特質を浮かび上がらせ、その課題と今後の展望を論じる。

目次

序章

- 1 研究の背景と課題
- 2 研究の構成
- 3 研究の対象と方法
- 4 先行研究

第I部 木造建築遺産保存の理念の検討

- 1 建築遺産保存原則の形成過程
 - 1 はじめに
 - 2 フランス・イギリス・イタリアの保存指針に見る 19 世紀における保存原則の形成
 - 3 国際保存憲章における保存原則の確立と普及
 - 4 おわりに
- 2 木造建築遺産への保存原則の適応
 - 1 はじめに
 - 2 木造建築遺産保存憲章のための初期の提案
 - 3 木の委員会カトマンズ会議と 1999 年の憲章
 - 4 『木造建築遺産保存のための原則』
 - 5 おわりに
- 3 建築遺産における「文化的意義」、「真正性」および「完全性」の概念の変遷と特質
 - 1 はじめに
 - 2 建築遺産の文化的意義の概念の変遷
 - 3 建築遺産の真正性・完全性の概念の変遷
 - 4 おわりに

第I部 小 結

- 1 木造建築遺産の保存原則の課題
- 2 木造建築遺産の文化的意義の特性
- 3 異なる修理へのアプローチ

第II部 木造建築遺産保存の方法における日本とヨーロッパの比較検討

- 4 ヨーロッパの木造建築遺産保存における基本方針の検討
 - 1 はじめに
 - 2 ヨーロッパの木造建築遺産保存における延命方針
 - 3 ヨーロッパの木造建築遺産保存における蘇生方針
 - 4 おわりに

5 日本の木造建築遺産保存における基本方針の検討

- 1 はじめに
- 2 日本の木造建築遺産修理における変形の修正
- 3 日本の木造建築遺産保存における「復原」
- 4 木造建築遺産保存における基本方針に関する日本とヨーロッパの比較
- 5 おわりに

6 保存原則の観点から見た木造建築遺産の修理技法の比較検討

- 1 はじめに
- 2 ヨーロッパの木造建築遺産の修理マニュアルの分析
- 3 先端が腐朽した構造木部材の修理技法の体系化
- 4 保存原則の観点から見た構造木部材の修理技法の比較検討
- 5 おわりに

結 章

- 1 建築遺産保存の行為が抱えている根本的な矛盾
- 2 木造建築遺産およびその保存の特性
- 3 木造建築遺産の保存修理への多様なアプローチ
- 4 日本の木造建築遺産保存の特性
- 5 国際的な観点から見た木造建築遺産の保存

参考文献

巻末資料

- 巻末資料-1 木造建築遺産保存憲章等
巻末資料-2 『歴史的木造構造物保存のための原則』(1999)、
『木造建築遺産保存のための原則』(2017) 比較表
巻末資料-3 日本における文化財民家建築の修理事例の検討
巻末資料-4 日本における文化財寺社建築の修理事例の検討

初出一覧

あとがき
英文目次・英文要旨

関連書籍

《第20回建築史学会賞受賞》

近世民家普請と資源保全

中村琢巳 著

本体価 10,000 円+税

近世において、民家は建てられた後にどのような生涯を辿ったのか、当時の建築生産の仕組みは何か、古材リサイクルなど資源保全から近世の民家普請を解明、木造建築である民家独特の生涯を明らかにする。

A5 判上製函入 本文 316 頁 挿図 163 点
ISBN 978-4-8055-0730-8 2015 年 2 月刊

中村達太郎

日本建築辞彙《新訂》

太田博太郎・稲垣栄三 編

本体価 6,000 円+税

東京帝国大学教授・中村達太郎(1860~1942)が単独で編纂、約4000語を収録し、以後の古建築用語辞典のほとんどの淵源であり、学界の一大遺産である名著の新訂決定版。五十音順に並び替え、多くの註を付した。

A5 判上製カバー装 本文 626 頁 挿図 800 点
ISBN 978-4-8055-0673-8 2011 年 10 月刊

せきのただし

関野貞日記

【在庫僅少】

関野貞研究会 編

本体価 19,000 円+税

わが国の古建築研究のパイオニアであり、近代の文化財保護の基礎を築いた関野貞(1868~1935)の記した日記・日録の翻刻。近代日本の文化財行政の発展過程が克明かつ具体的に記述されている重要資料。

A5 判上製函入 本文 834 頁 口絵 4 頁 挿図 272 点
ISBN 978-4-8055-0586-1 2009 年 2 月刊

中央公論美術出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-10-1

IVYビル6F

Tel: 03-5577-4797 Fax: 03-5577-4798

お取り扱いは